

因島高校を支援する会

発行
因島高校を支援する会
会長 竹中啓修
事務局：因島高校PTA
☎08452-4-1281
題字 竹中啓修

しまなみ海道高校PTA連絡会議開く

7月13日(土)因島市芸予情報文化センターにて、開催されました。島外への生徒流出に悩む芸予諸島の高校6校(弓削、大三島、伯方、大島、瀬戸田、因島)の校長、PTA会長、PTA役員ら約30人が集まり、広島県、愛媛県の県境を超えて、島の教育おこしを話し合いました。

発起人を代表して、因島高校PTA村井圭一会長が、会議に賛同いただいた各校長、PTA会長に感謝を述べ、「ひとつの力は小さくても、集まれば大きな力になります。同じ地域で同じ課題を抱えた高校が集まって、この島々の未来をたくす子ども達のために、島の教育を守るために、手を携えよう。」続いて因島高校桶東愛生校長が、「芸予諸島は、村上水軍の兵が活躍した地域であり、大山祇神社を氏神として一致協力した。その精神で、協力して生き残りの道を探ろう。」と挨拶しました。

来賓を代表して、村上和弘因島市長が、「地域が発展するには、人づくりが必要で、人づくりは教育からである。」と挨拶、続いて宮地康福教育長が、「広島県も教育改革を進めているが、愛媛県とくらべると遠回りしているが、早く仲間入りできる



高校名	設立	生徒数	校長	PTA会長
大島	昭23	63	明比 裕	黒部 君香
伯方	昭23	168	上田 和秀	山岡 義人
大三島	昭23	103	山岡 安治	脇谷 敬明
弓削	昭23	168	谷本 賢治	松本 敏和
瀬戸田	大14	189	長谷川 保男	井上 辰夫
因島	大9	553	桶東 愛生	村井 圭一

(前身の中学校の設立年)

充実した中身の教育を

会長 竹中 啓修



会長 竹中 啓修

支援する会が設立して、まもなく三年目を迎えます。地域の皆様方の温かいご支援、卒業生の皆様の力強い応援があったからこそ感謝しております。その結果、多くの面が改善され成果が現れてきました。地元の子供達を責任を持って預る事のできる学校に、今なるようしております。

この夏期休暇も、「勉強合宿・進学補習・代々木ゼミサテライン講座・海外語学研修」等実施されます。生徒指導に際しても、茶髪はいなくなり、制服・ネクタイも着用してきて、学校秩序や授業規律ができてきたように思えますが、一部生徒の対教師暴言や指導無視などや登下校時の交通マナーの問題も残されています。形の上での改善はかなりできてきました。今度は中身で

よう努力したい。」と歓迎の言葉を述べました。

会議の「第一部」基調報告として、各校の取り組み・現状報告があり、「第二部」は活発な意見交換がおこなわれ、今後交流の場を開くことを決めました。

最後に、比治山大学短期大学部 山田知子助教授から「地域に照らしあわせた郷土学習が必要。自校でしか学べないものは何かを探し出すこと。」と講評をいただきました。(島の教育の再生を研究指導)

会議終了後、瀬戸田町で、懇親会を催しました。地元を代表して、稲角利郎助役から歓迎の挨拶をいただき、「因島高校を支援する会」竹中啓修会長の乾杯の発声により、和やかに懇親を深めました。

第一部 各校の取り組み報告

大島高校

今治市にフエリーで二十五分という便利さから、今治市内へ通学する生徒が多く、生徒の確保に苦慮している。クラブ活動もかつては弓道部が全盛であったが、生徒減でクラブも厳しい。平成十二年度は入学一〇名と存続の危機にたった。大島高校運営協議会(会長村上哲司吉海町長)が中心となり、「高校は町のシンボル」という信念のもと、新入生確保に奔走した。校長は、今治市近郊など通学範囲内の中学へも、「少人数ゆえの丁寧な指導」を説明して回り、新入生確保の新聞折込チラシも作成配布、ホームページも作成し広域にPR。また吉海、宮窪両町も広報誌、有



地場産業をテーマにした大島石を使った授業

大三島高校

大三島は大島町、上浦町からなり、農業中心であるが教育熱心でいい高校に進学させたいという願いは強く、橋の開通により今治へバス通学が可能になり、流出が加速してきた。

高校野球の試合には全校挙げて取り組む。応援団は六年連続、過去三十回優秀賞を受賞しており、生徒も誇りを持っている。応援団は各クラスから二人応援委員が選出され生徒が自主的にやっている。

野球を中心に学校がまとまる。応援には町の人も貸切バスで参加し一体となる。

愛媛県総体には、全生徒中三八%が出場しており、県下一である。小さい学校ながらクラブ加入率は九四%。放課後補習は一年生から全員参加

伯方高校

島の教育の一端を担ってきたが、近年入学者減・定員割れが続く。伯方は造船海運の町で経済的な豊かさもあり、橋開通以前から今治へ下宿して高校へ通う生徒が多かった。いかに島にとどめるかが課題であり、「島に育つてこそ、郷土への愛情が育ち、島を想う子が育つ」と念じて地域に信頼される高校を目指して地道に努力している。

伯方高校に於いても進路指導の充実をはかるために習熟度授業など実施。

平成十二年度から三年計画で、「特色ある学校づくり」に取り組み、「ふるさとしまなみ再発見」ということで、生徒に地域の事業所や施設を体



保育園訪問

弓削高校

先生の平均年齢は、二十八歳(管理職除く)。新任の教師も多く、ほぼ全員の先生が島内に住み、遅くまで生徒の学習や部活動の指導をしている。町内のスポーツ大会にも積極的に参加するなど地元で溶け込む努力を重ねており、先生の人柄が伝わり、町の信頼を増している。

「特色ある学校づくり」として、公徳販売(校内の無人販売所)で、文房具などを販売しているが、金銭の不足も無く生徒への信頼は高い。

また、地域が人を育てるといつ考え方から、夏休みのデイサービス訪問、六月には乳幼児と母親三十八人を学校

瀬戸田高校

その後全員でクラブ活動三年の就職対象者は、パソコン教室など実施。中学の保護者は「この大学に入ったが、高校の評価」というため、進路実績を出すため、補習など力をいれている。「生徒の人格は付加価値」として認めてもらえないのか。社会に出て、将来島を背負っていく気構えを持った子に育てたい。」

十二年前、瀬高会が発足し関係者の支援努力により、よくなってきた。小中高一貫教育を通じて生口島の子を十二年間トータルで育てようという考えである。

就職希望者に「インターンシップ」として、一年間をとおして、町の協力も得て、六ヶ所の事業所に分かれて、働く喜びを経験させている。

特色ある授業として、「海辺活動」でスキューバダイビングの資格取得。瀬高オリジナル特別講座は、「釣り講座」「保育講座」「太鼓講座」を、年三回、町の補助も頂き実施している。地域の力、教員のもっている授業以外の力を発

因島高校

三年前、中学生の島外への流出を防ぎ魅力ある因島高校をめざすため、PTA、同窓会、市PT連等が中心となり、「因島高校を支援する会」が発足。茶髪、まんが、携帯電話、化粧と、授業を妨げる生徒があり、みんなで高校の実態を見に行こうと、小中高の一斉参観日を実施した。教職員も含めて他の学校の実態も見てもらい連携を深め、学ぶ環境を作っていくという共通の認識になってきた。学力を伸ばすことが差別につながるという先生の認識も変わってきた。

大手予備校の衛星放送を利用してPTA主催で土曜日の補習を実施し生徒に好評。

市から研修費の一部助成を受け、今夏オーストラリア、ブライビー高校へ海外語学研修を実施する。市の代表としていくことで自覚を持たせ、帰国後は発表の場を設けた。



瀬高オリジナル「太鼓講座」



全校生徒で、高校野球の応援(今年度は準々決勝(ベスト8)に進出した)

因島高校の最新鋭の天体望遠鏡で夜空をのぞいてみませんか
8月9日(金)・10日(土)
午後7:30 - 9:30
お問合せ・お申込は
☎08452-4-1281
因島高校PTA



衛星放送の補習授業

しまなみ海道 高校PTA連絡会議

第二部

意見交換



—入学生の確保について

大三島 中学・小学生は年々減少している為、高校生の生徒確保が厳しくなる。今治へ進学する者をつなぎとめるため、学力向上に早朝、放課後まで個別指導している。大三島、上浦両町にお願いして、「教育振興会」をつくり、上位者の基準得点を超えた生徒に授業料相当額を補助していただく制度ができた。二、三年生にも、学年末試験の上位者に授業料免除することになり、あわせて全校生徒の約一割が、支給されている。(支給は一年単位)生徒の励みになれば、感謝している。

大三島P 高校は県立で義務教育でもないため、町がどこまで関与するか難しいが、高校を支援するため地元で補い、島の意欲ある生徒を十分育てていくことにつながってほしい。

因島 広島県教育委員会が今年から、シラバスの作成を義務付けた。因島高校では、制作費の予算が無いので、PTAに協力してもらい発行。全生徒を通じて保護者に配布した。大三島 夏休みに学校見学会を実施し、中学生に「体験学習」をさせる。中学の先生に実態をみてもらい、「しっかりしているな」と大三島高校の生徒をみてもらう。

因島 因島では、今年、特別進学クラスを設けた。以前、生名中から因島高に入学生がいたが、今は引削高がいいと聞きますが。

引削 進学希望者クラスにし

問して、新鮮な驚きを感じた。よりよい高校づくりの範としたい。クラブ活動で学校が再生したとが、活性化したと聞きますが。

伯方 数年前は、学校が荒れていた。グラウンドも草ぼうぼうであった。野球部の監督を迎え、努力の甲斐あって、監督の手柄が生徒の心に浸透した。野球部の生徒は、奉仕活動にも熱心に取り組んでおり、学校の町の花壇を手入れしたり、文化祭では、もちをついて老人会に配ったり。これらのことは、全校生徒に良い影響を与え、問題行動の生徒もいなくなった。今や近隣の島から伯方高で野球をしたいという入学希望者が増え

てきた。クラブは、技術より人間性を大事にしている。勝つことも大事だが、教育的指導が求められる。運動部の顧問として大切なこと。私は、二日に一回は教室を回っているが、学校の元気の核になってくれていることを実感している。

伯方P 中学でバスケットをしてきた新人生の希望で、校長に相談して同好会が発足したが、体育館は他のクラブでいっぱい。町も体育館を優先的に利用させるなど物心両面で支援している。

因島P 生徒の交流も深められた。たとえば文化祭へ行ったり来たり、特別参加したり、よそのいいところも見て、参考にしたい。野球のリーグ戦をしたり、大三島の村上三島先生が有名ですが、大三島で書道クラブの大会を開いたらいかでしょうか。域内の文化を一枚だけでなく、みんなで盛り上げて発信したい。

因島P 愛媛県側の高校を訪

すが、どのようにして指導を一本化していますか。

引削 生徒指導は生徒指導課長が提案します。保護者から苦情の電話も有るが、家庭訪問したり根気強く対応している。生徒指導については全教員が島で生活していますから、よく目が行き届きます。開かれた学校づくりを目標としていますが、先生方の同僚関係が開かれてできると考えている。生徒と悩みを話したり、身だしなみ指導もキチンとしてちよつと一人でも見逃すとグジャグジャになりますから、全員が同じ気持ちで指導することです。

大島P 登下校の生徒の身だしなみで世間の人は判断する。生徒指導の成果によりだんだん良くなり、町の人の評価も上がってきた。地元にながら、高校に関心がなかった。我が子が入学して、先生方が懇切丁寧に指導してくれるのを感じた。中学生の保護者いかに理解してもらおうか、「今治の高校に行ったらいい」という親の意識を変えなくてはいい。

瀨戸田P 親が学校に行く機会を作ろうと考えて、文化祭でPTAコーラスをした。学校に関心をもちてもらったことが必要だ。その人たちが、翌年PTA役員になってくれた。

——生徒指導で、先生方や保護者に温度差があると思いませんか、



大島高校文化祭

大島 十年ほど前から、島四国八十八寺のお遍路さんに男女の生徒が水羊羹を五〇〇程つくって提供しているなど、伝統を守る努力をしていることが、町民に理解を得ている。大島のバラ祭の掃除を依頼されて出かけたが、保育園祭りに行って、保育園児の世話をしているが、地域から手伝ってくれという声がかかり出したという事は、うれしいことであり、自分たちも貢献しているのだという自信につながっている。

瀨戸田P インターシッピングで生徒が地域の事業所で勉強しているが、地域に必要な産物を子供達がどう受け止めているか。地域のよさを学習していくという心を感じてほしい。

引削P 島をゆっくり見なおして、島のよさを生かした教育をPTAの保護者も巻き込んで進めていきたい。

瀨戸田P 瀨戸田も昔は、離島だった。今、橋が通ったので、本土にストロー効果で吸い上げられている。引削高はいい意味で離島で、羨ましい。

——町広報を積極的に高校のPRに使っているようすが。

伯方 町広報を積極的に利用。野球部、俳句部などを町広報には、今まで毎号二ユーヌに取り上げていただいているが、今年度から、一ページ

「全国高校野球選手権広島県大会」因島高校3回戦進出 土生中プラスバンドが応援



土生中プラスバンド部(左端は村井PTA会長)

今年の野球部はよく健闘した。一回戦は、葦陽にコールド勝ち。一回裏、打線爆発、一挙10点。エース三島浩太は、アウト

15のうち9三振とり、葦陽打線を沈黙させた。二回戦は五回に3長短打などで七点を奪い、試合を決めた。三回戦まで勝ち進んだ部員達を励まそうと、村井圭一PTA会長は、土生中にプラスバンド部の出場を頼み込んだ。半日の急練習ながら、女子部員七名は、トランベットやサクソホンを吹き鳴らし、応援を盛り上げてくれた。

藤原邦雄野球部保護者会長は、「去年までは、高校や教育に対する気持ちが、高校や教育に対する気持ちが現われと思う。」

「伯方高校のページ」を任せられた。生徒会が自主的に取材編集に取り組んでおり、ありがたいことだ。



伯方町広報と吉海町広報

大三島P 私が通学していた頃は、一学年二〇〇人くらいいて今の因島高校くらいだ。その頃から考えておれば少しは事情がかわっていたらどうか。因島高校はちょうどいい頃に取組んでいる。健闘を祈ります。

引削P 経済圏の影響は因島がほとんどなのに、教育は愛媛県ばかり見ていた。今回の会議を機に同じ地域として協議協力するなど、広い視野でものを見てみたい。

瀨戸田P この会が継続してできる体制を考えましょう。

因島P 地域の子を育てるには、その地域に学校がないといけない。小規模校は統合せよといつのでなく、教育予算はケチらずに将来を担う子を育てる学校は残さないと、地域は発展しないと。今後

も島の高校ががんばっているということを発信していきたい。

の10人くらいの応援では、点差が開いたらそのまま流れてしまう。今回、九回裏、二点返す元気が出たのは、応援や土生中プラスバンドのおかげ。」と感謝していた。

一回戦(しまなみ球場)	
葦陽高校	00000
因島高校	1010120

二回戦(三次市営球場)	
油木高校	200100000
因島高校	200270011

三回戦(三原市民球場)	
庄原致致高校	000800000
因島高校	01001000024

編集後記

「井の中の蛙大海を知らず」ということわざがある。因島高校も、中学卒業生の島外流出が激しいが、しまなみ海道の高校を訪ね、話を聞くこともっと欲しい状況だ。先生方もPTAも町民も「高校は島のシンボル」と必死で取り組んでいる。各校の取り組みの中には、因島高校の生き残りへの参考がいっぱいあるように思った。

高校野球、因島高校の球児はよくがんばった。愛媛県の高校は、学校挙げて学校行事として応援に行き、楽器が鳴り、声援が飛び交い、野球を中心に学校の和が出来ると思う。

因島高校も、二つの高校が統合されて新しい学校の和を創造していく時期であり、吹奏楽部の友情演奏や、応援団の参加等があれば生徒達に限りない力を奮い立たせ、参加者を中心に愛校心や郷土愛も育つのではなからうか。